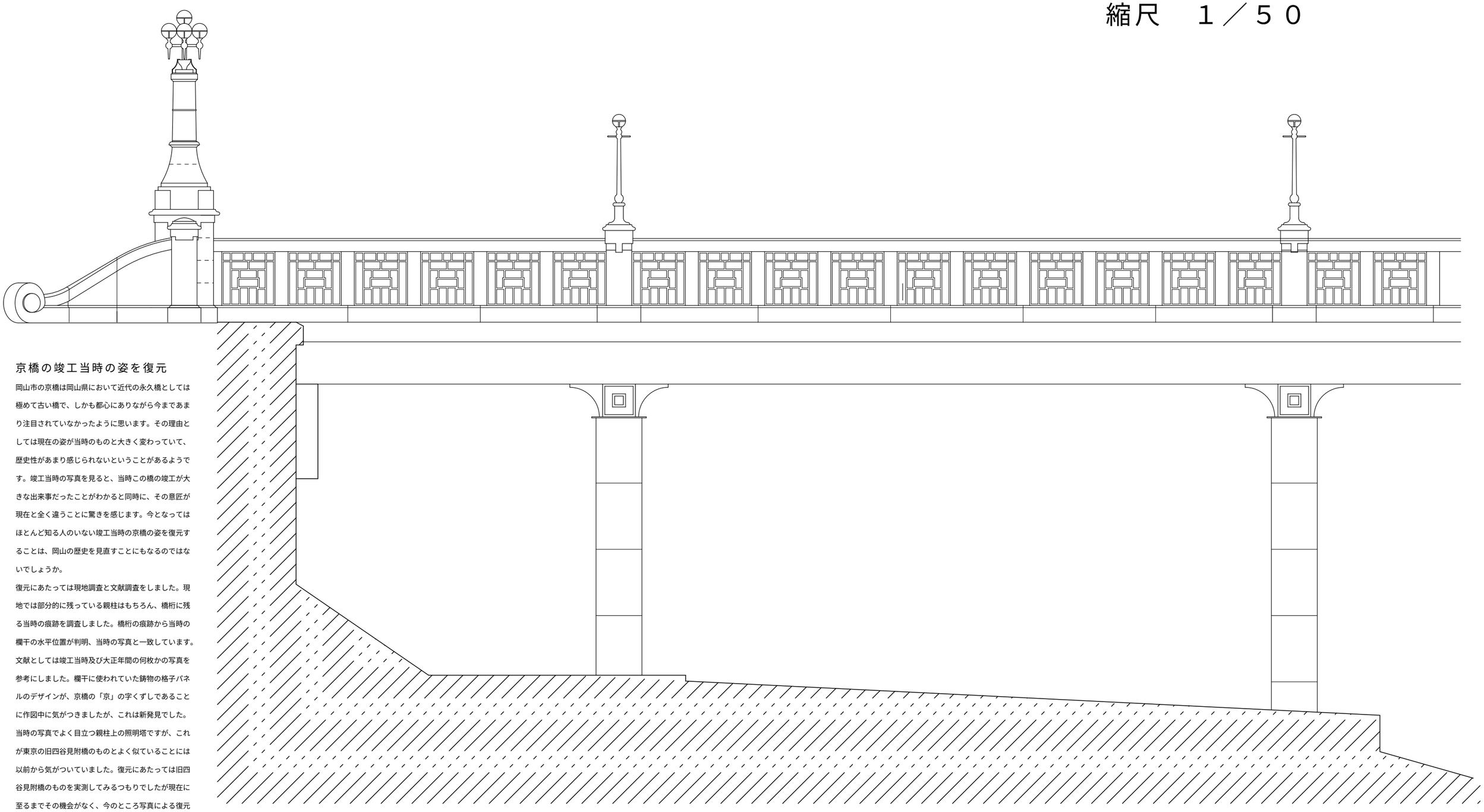
岡山・京橋復元図（大正６年竣工当時）

縮尺　１／５０



京橋の竣工当時の姿を復元

岡山市の京橋は岡山県において近代の永久橋としては極めて古い橋で、しかも都心にありながら今まであまり注目されていなかったように思います。その理由としては現在の姿が当時のものと大きく変わっていて、歴史性があまり感じられないということがあるようです。竣工当時の写真を見ると、当時この橋の竣工が大きな出来事だったことがわかると同時に、その意匠が現在と全く違うことに驚きを感じます。今となってはほとんど知る人のいない竣工当時の京橋の姿を復元することは、岡山の歴史を見直すことにもなるのではないでしょうか。

復元にあたっては現地調査と文献調査をしました。現地では部分的に残っている親柱はもちろん、橋桁に残る当時の痕跡を調査しました。橋桁の痕跡から当時の欄干の水平位置が判明、当時の写真と一致しています。文献としては竣工当時及び大正年間の何枚かの写真を参考にしました。欄干に使われていた鋳物の格子パネルのデザインが、京橋の「京」の字くずしであることに作図中に気がつきましたが、これは新発見でした。当時の写真でよく目立つ親柱上の照明塔ですが、これが東京の旧四谷見附橋のものとよく似ていることには以前から気がついていました。復元にあたっては旧四谷見附橋のものを実測してみるつもりでしたが現在に至るまでその機会がなく、今のところ写真による復元としています。

復元図を描いてみると自分でもびっくりするくらいの橋のデザインでした。もし現在この意匠が残っていたとすると文化財に指定されていても不思議ではなかったでしょう。

なおこれら当時の意匠が意外と短期間のうちに失われてしまったいきさつについては今のところよくわかりません。戦時中の金属供出で金属部分がなくなったことは想像がつきますが、欄干そのものや親柱の上半分がことごとく切り取られた理由はわかりません。

復元図制作：皆木　国義